

◆シンガポール出張報告

(日本ナレッジ・マネジメント学会専務理事 山崎 秀夫)

10月1日ー3日の三日間、シンガポールのナレッジマネジメント学会(iKMS)からの要望により久米副理事長と山崎で訪問しました。同学会主催のナレッジマネジメントカンファレンス(KM Singapore 2014、http://www.ikms.org/kmsingapore/kmsg14/_layouts/15/start.aspx#/SitePages/Home.aspx)に出席し、その後各国KM組織の国際連携(KMグローバルネットワーク)へのKMSJの参加を議論して来ました。

■ KMグローバルネットワークへの参加

<http://www.ikms.org/SitePages/KM%20Global%20Network.aspx>

KMグローバルネットワークは既にシンガポール、香港、豪州、タイランドの四つの組織により2014年5月、結成済みです。この時はあまりに急な話故、KMSJは前向き検討と返事をしていました。その流れで中心国のシンガポールより10月のカンファレンス(KM Singapore 2014)への訪問を要望された経緯があります。

KMグローバルネットワークの中心はシンガポール(実践面が強い)とタイ(バンコク大学ナレッジマネジメント大学院、アカデミックが強い)の連合で推進されています。カンファレンスの最終日にシンガポール(カルナ・ラマナサン氏他1名)とタイの代表者(ビンセント・ビエレさん他1名)と朝食を食べながらKMSJの参加問題を議論しました。(各国各2名が参加。)

特に予算面では年会費などは無く、各国ナレッジマネジメント学会の緩やかな連合体なので、自国が会議を主催する場合に発生する費用はその国が負担します。そして招待を受けた国は自らの旅費を負担します。

久米副理事長と私の判断では、参加しても全く問題は無く、学会の海外交流を広げる機会、会員の皆様に海外で発表する、海外の研究と実践を体感する機会を提供出来るため、是非、参加すべきと感じました。この点は次回理事会で議論します。

シンガポールとタイはフランス、インド、中東、韓国などに声をかけており、

2015年の半ばにKMグローバルネットワーク拡大のための第二次調印式を実施したいと言っていました。

■ シンガポールの KM カンファレンス

シンガポールの KM カンファレンスに参加しましたが、彼らは実践面の意識が強く、シンガポール警察の事例発表があった5-6年前の状況とは様変わりです。民間企業での経営実践が進んでいます。企業グループ全体で知識創造の文化を作っている企業の事例や参加者数2万5千人でシンガポールと豪州に展開し、更には中国や中東に拡大するシンガポールテレコム（現NCS）の企業内ソーシャルメディアの事例など実践面でも相当の充実感がありました。シンガポールテレコム（現NCS）の事例では、CEOがアルハッシュを着て踊りだしたり、ランニングなど健康運動や実際の対面イベントを企業内ソーシャルメディアの中に取り込む姿は圧巻でした。

シンガポールは国が「キープヤング政策（若者にどんどん権限を移譲する政策）」を取っており、その為、ナレッジマネジメントが一種の経営セミナーとしてリーダーシップ論などで重視されており、若者の受講が非常に目立ちました。

一方理論面ではタイ勢が活躍し、アメリカ海軍の進化心理学や脳科学、人類学実践を取り入れた「暗黙知の心理学からの説明」などは圧巻でした。これはリーダーシップ論の講義ですが、自己とはなにか、意識とは、そして脳のモジュール構造の連合体としての知識創造と言った視点です。またアイデアの作り方の講演では、セサミストリート（子供番組）の二つのキャラクターを組み合わせれば「アングリバード（スマートフォンのトップゲーム）が出来る」など非常に判りやすい説明がなされています。進化心理学や脳科学、人類学からのアプローチは、国内では殆ど見られない為、筆者には新鮮に聞こえました。（単純に経営学アプローチしかしていないKMSJは、この点相当遅れており、下手をすれば内容を理解できないかもしれないと危惧しています）

■ 国際交流の機会を増やします

今後 KMSJ の国際交流のチャンスはどんどん増やすべきだと考えています。前理事長が推進されたTKFに代る様々な試みをしてみたいとの思いを強くした出張でした。